

## 顔のどのパーツが第一印象を形成するのか

### What part of the face constructs the first impression of strangers and friends?

市川満葵<sup>\*1</sup>, 沖林洋平<sup>\*1</sup>

Miki ICHIKAWA, Yohei OKIBAYASHI  
山口大学教育学部

<sup>\*1</sup>Faculty of Education, Yamaguchi University

Email: [b002jb@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:b002jb@yamaguchi-u.ac.jp)

**あらまし**：標準顔, マスク着用顔, サングラス着用顔, マスクとサングラス着用顔の写真を1枚ずつ2秒間提示し、評定してもらった。標準顔の評定値が他の顔写真の評定値よりも高かった。女性回答者の評定値の変化量は、男性回答者の評定値の変化量よりも大きかった。

**キーワード**：第一印象, 性格特性, マスク, 大学生, コロナ禍

#### 1. はじめに

トドロフ(2019)によると,第一印象は10分の1秒というわずかな時間で形成される。人は生まれつき顔に関心を払う。それは、意思疎通を行い養育者とのコミュニケーションを図るためである。この顔に対する注意バイアス及び人生初期の視覚経験が、顔は情報提供的な価値をもつと私たちに信じさせ、社会的コミュニケーションを助けている。しかし、顔の何がその印象をもたらしたのか、私たちは分かっていない状況で、見かけの情報に頼っている。また、顔は常に変化しており、その解釈も異なる状況で急速に変化している。ではコロナ禍においてマスク着用の日々が続く、顔の約半分が隠れているなか、私たちはどのように第一印象を形成しているのだろうか。本研究では、マスク着用による第一印象の形成の変化や、第一印象と印象の違い、顔の要素が第一印象の形成にどのように影響するのかについて調べた。

#### 2. 方法

実験材料として、女性の顔写真(標準顔, マスク着用顔, サングラス着用顔, マスクとサングラス着用顔)4枚と、男性の顔写真(標準顔, マスク着用顔, サングラス着用顔, マスクとサングラス着用顔)4枚の計8枚を用意した。

実験参加者は、顔写真の人物である2人と面識のない大学生179人と、顔写真の人物である2人と深く関わりのある大学生16人。

参加者には、顔写真を1枚ずつ2秒間提示し、3つの性格特性に関する15項目について7段階評定

尺度を用いた。その他にも、回答者のコロナ禍における考えのアンケートを取り、回答者の性格特性を調べるためにビックファイブを使用した。

#### 3. 結果

それぞれの顔写真の「個人的親しみやすさ(fam)」「社会的望ましさ(soc)」および「力本性(pow)」の評定値を合計し、平均を算出したうえで分散分析を行った。

標準顔の評定では、社会的望ましさについて男性の方が女性より有意に高い( $t(193) = -2.791, p < .01$ )。マスクを着用すると、個人的親しみやすさと力本性において、女性の方が男性より有意に高かった( $t(193) = 7.314, p < .01; 2.902, p < .01$ )。しかし、サングラス着用顔では、個人的親しみやすさと力本性において、男性の方が女性より有意に高かった( $t(193) = -6.125, p < .01; -2.180, p < .05$ )。マスクとサングラスを着用すると、すべての性格特性において女性と男性の間に有意差はみられなかった。これについて、各性別からの評定を調べると、全体的に、標準顔については女性の評定の方が高いが、顔の要素の一部が隠れると男性からの評定より低くなっていた。

また、第一印象の正確さを調べるために、顔写真の人物と深く関わりのある実験参加者の印象評定と、顔写真の人物と面識のない実験参加者の第一印象の評定を比較した。その結果、女性への評定は、標準顔の社会的望ましさについて、印象の方が第一印象より有意に高かった( $t(2304) = -2.984, p < .01$ )。(Figure1) 男性への評定は、マスク着用顔の力本性について印象の方が第一印象より有意

に高かった( $t(2304) = -3.118, p < .01$ ).  
(Figure2)

次にビッグファイブを用い、回答者の外向性・情緒不安定性・調和性について調べたが、回答者の性格特性による回答の違いはみられなかった。

最後に、他者の第一印象を形成する際に最も影響すると思う要素を回答してもらった。その結果、回答の違いによる、各顔写真への評価の違いはみられなかった。

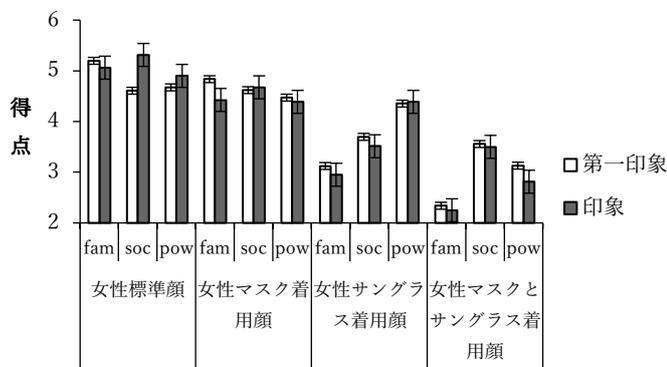


Figure1 女性における各条件の関係性別の平均評定値

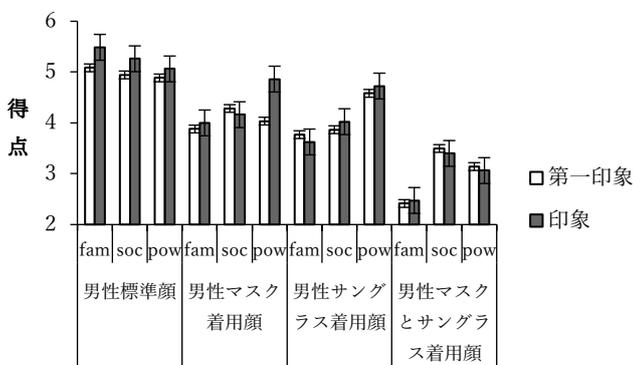


Figure2 男性における各条件の関係性別の平均評定値

#### 4. 考察

まず、各性別からの評定値の違いを比べたとき、女性の顔写真と男性の顔写真の両方において、標準顔では女性からの評定が男性からの評定より高かったことに対し、顔の要素が隠れると女性からの評定が男性からの評定より下がっていたことから、女性は顔が隠れると相手の顔への不安を抱きやすく、評定が変化しやすいということが読み取れる。梶田 (1988) は自己評価的意識の構造的特徴について、男子では自己へのまなざしと他者のまなざしへの両意識が拮抗するのに対し、女子の場合は他者のまなざしに関する意識が中心になると指摘していることから、女性は男性よりも外見を重要視するため、第一印象の形成において、顔の見かけや、顔の要素が隠れることは大きな影響を与えると考えた。

そして、第一印象評定と印象評定を比べた結果から、隠れている要素がその性格特性における印象形成に大きな影響をもたらしていると考えられる。

まず、女性の評定ではサングラス着用時の社会的望ましさにおいて、第一印象評定より印象評定の方が低くなっているということから、目が社会的望ましさを評定する際に大事な要素になっているということと、サングラスを着用している顔への馴染みがないために、その人を知っている人ほど評定が下がるということが読み取れる。一方で、男性はマスク着用顔における力本性について、第一印象の評定より印象の評定の方が有意に高いということから、口元が力本性を評定する際に大事な要素になっているということがわかり、男性と関わりのある実験参加者は、マスク着用顔に慣れているため、印象評定が変わらないということが読み取れる。コロナ禍前まではマスク着用顔は健康志向への低さを示し、魅力度を低下させる要因であったが、これらのことから、コロナ禍においてマスク着用の日々が続く、私たちはマスク着用顔に抵抗感を抱かなくなっていることがわかる。また、第一印象の評定と印象評定に有意差がみられたことから、第一印象の不正確さを読み取ることができた。実験結果全体からは、顔の印象から性格特性についての評定に変化が起きているということから、人の顔から性格を無意識的に結び付けていることがわかった。

最後に、他者の第一印象を形成する際に最も影響すると思う要素を調べた結果、回答の違いによる評定の違いは見られなかった。つまり、見えている要素で第一印象を形成しており、自分が意識していると思っている要素で常に第一印象を形成しているとは限らないということがわかった。

#### 参考文献

- アレクサンダー・トドロフ：印象の科学—なぜヒトは顔に惑わされてしまうのか？—。みすず書房。(2019)
- 廣兼孝信, 吉田寿夫：印象形成における手がかりの優位性に関する研究。実験社会心理学研究, 23, 117-124。(1984)
- 田中久美子：なぜ、女性は容姿にこだわるのか？：相互依存症と自己対象化理論から。京都大学大学院教育学研究科紀要, 45, 162-171(1999)
- 豊田弘司：大学教授の好意度を規定する対人認知の次元。奈良教育大学心理学教室 教育実践総合センター研究紀要(2005)